

令和5年度学校評価報告(学校関係者評価)

宮城県松山高等学校

1 本年度の重点目標

- ・【学ぶ楽しさ】
一人ひとりの力に合わせて、「丁寧でわかる授業」を行い、学ぶ楽しさを伝える。
- ・【自分を創る】
様々な活動を通して、自分の可能性を見いだす手伝いをし、自分の未来を創造させる。
- ・【共に学び、共に生きる】
他者との積極的な関わり合いの中で、共に学び、助け合って生きる社会性を育てる。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	内容	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	① 最新情報を伝える広報活動の推進	A	中学生に向けての広報活動として学校紹介パンフレット作成や各種学校紹介文書の作成などを行う。また松高だよりを年4～5回発行し、回覧板を通じて町内への広報活動を活発に行うことができた。	A	A
	② 各種式典の円滑な運営	A	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応を念頭に置きながら各種式典を円滑に行うことができるよう関係部署と連携して、計画・準備・運営を行った。始業式 修業式 入学式 卒業式 オープンキャンパス 予備登校 芸術鑑賞会 等		
	③ PTA活動の活性化と同窓会の円滑な運営	B	新型コロナウイルスの蔓延防止はの配慮から未だに以前の活動状況を再開するには到っていない。役員の見意を取り入れながら実施できる範囲で運営できたが、新企画を取り入れることはできなかった。また、同窓会も円滑に運営できた。		
	④ 朝読書の促進と読書活動・学習支援の充実	A	「朝の読書」に学校全体が一体感をもって取り組めるよう、生徒や教職員に働き掛け、学級文庫の充実や環境作りに取り組んだ。また、より利用しやすい図書館にするための仕掛けづくりや広報活動が行えた。総合的な探究の時間や調べ学習、特別活動等で図書を活用した学びの支援ができ、担当教諭と連携して図書館資料やサービスの充実を図ることができた。		
	⑤ 実践的な防災活動の推進	B	防災教育を行い災害に対する生徒の意識の向上に貢献できた。避難訓練を工夫し、より実践的な訓練ができた。但し、不審者の侵入やJアラートに対応した訓練の実践までは到らなかった。今後は地域との連携も検討していきたい。		
	⑥ 奨学金に関する、より迅速で丁寧な情報提供	A	校務運営システム等を活用し、奨学金情報伝達の迅速化を図ることができた。また複数で担当にあたり、漏れのないように配慮したり、保護者が同席して奨学金の申請ができ、進学志望の生徒の要望に応えた。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	内容	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教務関係	① 学力の基礎・基本を育成する。	B	シラバスに基づき授業を進めることができた。観点別評価実施2年目を迎え、学びの多様性事業により学びのUDLに関する調査研究が進んだことで教材の開発も進んだと考えられる。	A	A
	② わかる授業を実践する。	A	昨年度に引き続き外部機関との連携事業によって研究授業や互見授業が活発に行うことができた。ICTの活用機会が増え、授業の工夫がなされていた。		
	③ 新学習指導要領実施による内規・規定等を適切に運用する	B	今年度1・2年生は新学習指導要領実施2年目で、実施するなかで見えてくる問題点もあったと考えられる。内規と共に検証して問題点を洗い出し、次年度以降改善していきたい。		
	④ ICTの活用の推進を図る。	B	一人一台タブレット使用の環境整備が進み、授業や行事での使用機会が増した。		
	⑤ 教務・校務運用システムを活用する。	B	例年同様、システムの運用がなされている。マニュアルの整備も進んでいる。		
	⑥ ホームページの充実を図る。	A	今年度はホームページの見直しと改善を進めることができた。		
	⑦ 教務保存資料を整理する。	B	毎年毎年保存年数を確認し、対応していきたい。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	内容	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導関係	① 社会生活秩序の慣用を図る。	A	基本的生活習慣の確立を目指し、全教職員の共通理解のもと取り組んだ。生徒自ら取り組める工夫をした。	A	A
	② 主体的活動を推進し、個性の伸長を図る。	A	ホームルーム活動において、全校での取り組みはあったものの、クラスでの取り組みに改善の余地がある。また、生徒会執行部の取り組みも活性化し、学校内だけでなく、外部へも学校の魅力を発信できるようにしたい。		
	③ 安全教育の推進と意識の高揚を図る。	B	生徒に対する講話や職員の研修について、近年の社会情勢に即したものを計画的に行うことが不足していたため、安全教育の充実を他分掌と連携して行って行く必要がある。		
	④ 関係諸機関との連携・強化を図る。	A	各学年との連携、共通理解が不足した場面もあるので問題発生時には部として計画的に対応するようにしたい。		
	⑤ 不安や悩みを抱える生徒や保護者に対し、SCやSSW等の教育相談を効果的に活用し、問題の解決が図れるように援助する。	B	保護者の協力を得ながら生徒が抱える問題解決に向けた支援の道筋を立てていくことが出来た。		
	⑥ 生徒の困り感に関する調査をし、適切な支援と指導を行う。	A	生徒や保護者とも学校生活における困り感が潜在している様子が見られた。学習面・生活面での躓きが表面化しサポートが必要になることもあった。適宜、個別に生徒・保護者にサポートの必要性を説明し早期に支援が開始できた。		
	⑦ 健康的な生活を送るために適切な自己管理ができる生徒を育てる。	B	昨年度よりもむし歯を保有している生徒は減少しているが、むし歯・歯肉の状態が悪いまま受診に至らない生徒は多くいる。保護者も含めた生徒の健康管理について対策を考えていきたい。		
	⑧ 安全で安心して生活できる教育環境を整える。	A	月1回の安全点検により、教室内の設備を定期的に確認できるようになった。交換や修繕が必要な箇所を早期に把握し対応することができた。		
	⑨ 保健室利用が必要な生徒のケアを十分に行えるよう環境を整える。	B	一日平均1.6人の利用状況であり、安易な利用が減少している。他の来室者を気にすることなく、保健室を利用できる環境になった。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	内容	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導関係	① 規律ある生活と先を見通す力の育成	B	保護者説明会をはじめ、様々な場面で卒業後の進路先への定着の大切さについて意識的に指導を行った。	A	A
	② 志教育計画に基づく、3年間を見通した体系的な進路体制の構築	A	おおさき産業フェアへの参加や合同企業説明会の本校実施、外部講師による指導などでの生徒の取り組みは概ね良好に感じた。一定の意識改革に貢献できたと思う。		
	③ 生徒全員の進路希望の実現	A	就業のイメージをつかむためのガイダンスを各学年で実施した。1・2年次から職種や業種などの仕事について学ぶ機会を作ることができた。3年生の進路希望の実現については、概ね支援ができた。		
	④ 進路先との連帯を密にし、定着に向けた細やかな指導を行う	B	今年度は4月以降の定着指導も順調に行うことができ、就職者の動向を把握することができた。		
	⑤ 保護者との連帯を深め、保護者の意見をできるだけ取り入れた進路先を模索する	B	2・3年次に、生徒保護者進路説明会を行うことで、生徒と保護者の話し合いのきっかけとした。進路だよりの発行を通じて、情報の発信を積極的に行った。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	内容	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
事務関係	① 迅速かつ適正な会計処理の推進	A	学校徴収金会計については、年度当初の職員会議において令和5年3月に改訂された「学校徴収金取扱マニュアル」を全教職員に配付するとともに、以後の職員会議においても事務処理上の留意事項を記載した資料を配付し説明するなどして適正な会計処理の推進に努めた。	A	A
	② 学校施設・設備の充実と維持管理の徹底	B	災害復旧工事については、工期の延長はあったが、概ね順調に施行することができた。安全点検等により発覚した修繕箇所等については、可能な限り早期に対応することができた。懸案だったピロティの廃棄物については、適正に処分することができた。		
	③ 生徒・保護者への的確な対応を行うための情報共有	B	就学支援金等の各種手続きを円滑に進めるため、各クラスの担当教員等と生徒家族の状況等について必要に応じて情報共有し、生徒・保護者に対する的確な対応を行うことができた。		

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	内容	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
家政科関係	① 基礎・基本の充実と技術の確立	B	1年生では各科目において基礎・基本に重点をおいた指導を丁寧に行った。また、各コースにおいてはさらに実践的な内容に取り組み、技術・技能を身に付けるために技術検定にも意欲的に取り組んだ。	A	A
	② 発展的な学習の推進	B	1年生で施設見学を行うことができ、特に伝統産業や環境問題について学習を深めることができた。また、各コース学習や課題研究・家庭クラブの研究発表大会においては授業内容を基に、個々が発展的な学習に取り組んだ。		
	③ 地域施設・外部企業との連携による人間性の伸長	A	あおぞら園・大崎市・社会福祉協議会・松山小学校などと連携し、外部の方と対面しての活動の場を設けることができ、人間性の伸長を図ることができた。今年度は4年ぶりに松山邑祭りが開催され、調理コースの生徒がボランティアとして参加することができた。		

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 学校全体での共通理解による、UDLに関する取り組みの継続	令和3～5年度にモデル校となった「共に学ぶ教育推進モデル事業」で取り組んだUDL実践と職員研修の継続。
② 視野を広げ、将来を具体的に描くことができるようになるための進路指導	進路指導における外部連携。(生徒による会社訪問や上級学校訪問、産業界主催行事への参加等) 学校行事の内容精査と、実施時期の検討。
③ 学校生活の充実に向けた運営	学校行事の内容精査と実施時期の検討。 いじめ早期発見にむけたさらなる取り組みの実践。(生徒情報共有システム構築、生徒による啓蒙活動等)
④ 生徒の社会性や積極性、コミュニケーション能力の育成	ソーシャルスキルトレーニングの積極的な実施。